

# 中学校における全職員、全教科からの『NIE』へのアプローチ

宮崎県立都城泉ヶ丘高等学校附属中学校  
指導教諭 前田直子

## 1 はじめに

本校は、都城市に位置し、西は霧島山、東は鰐塚山に囲まれた広大な都城盆地の中で、自然に恵まれた教育環境にある。

本校は、令和元年度で創立120年を迎えた、歴史と伝統を誇る都城泉ヶ丘高等学校の附属中学校として、平成22年度に開校し、6年間の中高一貫教育に取り組んでいる。

本校の教育方針は、建学の精神である「質実剛健」のもと、すべての教育活動において生徒に自ら思考、判断、行動させ、体験を通じた学びを連動（応用）させる指導に重点を置いている。実社会との関わりを幅広く学習する中で、自然科学に関する事象への旺盛な探究心や高い科学的洞察力を備えた人材、さらに郷土の産業や医療の中核となる人材の育成を目指し、体験活動を取り入れたさまざまな特色ある教育活動を展開している。



## 2 本年度の実践テーマ

生徒の社会的事象に関する関心を高めるとともに、課題に対して多面的・多角的に考え、自分の意見を持ち、表現する力を育む。（昨年度より継続）

## 3 本年度の取組

(1) 実践事例Ⅰ「新聞閲覧コーナー」〔対象：中学1～3年生 120名〕…昨年度より継続

### ① 目的

- ・ 日々の新聞を閲覧できる場を設置することで、生徒に新聞に対して興味・関心をもたせ、身近な情報源として新聞を手にとって読める場とする。

### ② 取組方法

- 各学年の教科連絡係の生徒が輪番制で、毎朝、新聞を閲覧場所に設置する。
- 閲覧コーナーは、全校生徒が利用する教室棟階段横のエレベーターホールを利用する。
- 前日分の新聞は、閲覧コーナー内の新聞ストックボックスに収納し、一定期間自由にとつて読めるようにする。

### ③ 取組の実際

近年、生徒の中には新聞を定期購読していない家庭がある。また、定期購読していても、新聞を読まない生徒もいる。このような現状は昨年度と変わらず続いている。そこで、昨年度から引き続き生徒たちが日常的に新聞に触れる場をつくり、紙面に目を通していく環境を整え、樹木が枝葉を広げるように事実が相互に関連して「見える」化できる「紙媒体」のよさを味わわせ、新聞を手にする習慣を身に付けていくようにした。

なかなか新聞を手にしなない生徒も、毎週新聞を手にしななければならない課題などを教科で出していただくなどの工夫があり、昨年度に比べて、「新聞コーナー」の存在は、確実に本校にとって欠かせぬものになりつつある。



(2) 実践事例Ⅱ「新聞スクラップ」〔対象：中学1～3年生 120名〕…昨年度より継続

### ① 目的

- ・ 新聞の中から気になる記事を切り抜かせて、ワークシートにまとめることで、要旨を要約する力を身に付けさせるとともに、自分の考えを人に伝えるための表現力を身に付けさせる。

### ② 取組方法

- 毎週の週末課題として、生徒はその週の新聞（NIE用新聞・家庭の新聞）から1つの記事を選んで、ワークシートにのり付けする。
- 選んだ新聞記事を150字程度で要約する。
- 選んだ新聞記事に対する自分の考えを200字程度でまとめる。

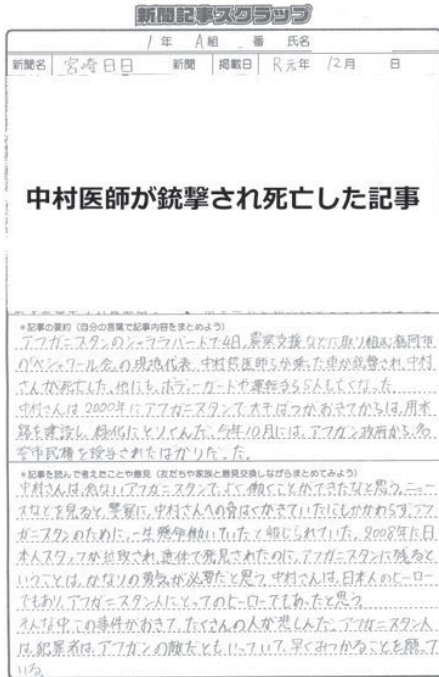
### ③ 取組の実際

新聞記事については、ジャンル等は限定せずに自由にして、生徒の取り組みやすさを考慮した。

この取組を始めると、新聞閲覧コーナーに集まる生徒たちが増え、真剣な顔で新聞の隅々まで読み、気になる記事を選んで切り取り、新聞記事をクリアファイルにストックしていく生徒が徐々に増えていった。

新聞記事についての意見をまとめる欄は、友だちや家族と意見交換をすることで、その記事の内容についてじっくり考えたり、考えがさらに深まったりした生徒たちも多く見られた。内容の良い作品は、各学年の廊下に掲示して、他の生徒の選んだ記事や意見に自由に触れることができるようにした。

生徒作成の一例



廊下掲示物



### 生徒の感想

- その記事を書いた記者の目線からや、他の人の目線から、自分の意見や考えなどを深く考えられるようになった。また、いろいろなことに興味をもつようになった。
- 社会の授業で、国際的な内容の話が出てきても、以前新聞で見たなということが増えて、全く分からないということが少なくなった。
- 今の日本である程度自分たちの身近で起こっていることを知り、自分だったら…と考えたり、なぜこんなことをしたの?と考えたりした。
- 家族と新聞記事の内容について話す機会が増え、知識も増えた。

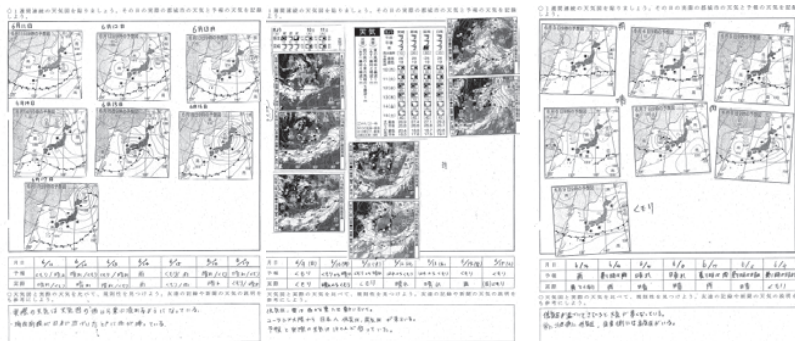
### (3) 実践事例Ⅲ 「天気の変化」〔対象：中学2年生 40名〕

#### ① 目的

- ・ 天気図を活用することにより、日々の天気の変化に興味をもたせ、天気の移り変わりの規則性について考えさせる。

#### ② 取組方法

- a 「天気の変化」の単元に入る前に、各自、1週間、毎日の天気図を切り取りレポートにはる。その日の天気と天気図を比べて記録する。
- b グループ内で、記録の結果を出し合い、天気図の見方や、天気の移り変わりの規則性について話し合う。



#### ③ 取組の実際



6月から7月にかけて、各自天気図を記録した。予報と実際の天気を比べながら、天気図の特徴について調べた。グループ内で各自の記録を出し合い、「天気予報、天気図の内容、天気の移り変わり」について、話し合った。各グループの話し合いでは、高気圧・低気圧と天気の関係や、前線の特徴、低気圧の移動など、天気に関する内容を考えることができた。これは、「天気の変化」の単元に入る前に行ったため、その後の学習に大変役に立つものとなった。

### 生徒の感想

- 高気圧、低気圧と天気の関係が分かった。
- 前線のまわりに雲が多く、雨が降ることが分かった。
- 高気圧、低気圧は、大陸から動いてきている。また、低気圧は西から東へ動く。
- 天気は西から東へと移り変わることが分かる。
- ヘクトパスカルが同じでも、高気圧のときと低気圧の時があることが分かる。
- 梅雨前線が近づくと、日本は雨になることが分かる。

#### (4) 実践事例Ⅳ 「Hot News in Japan」〔対象：中学2年生 40名〕

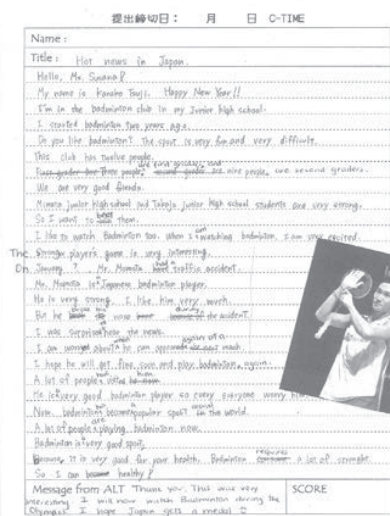
- ① 目的
  - ・ 興味がある時事問題について英語で表現できる。
- ② 取組方法
  - a 気になるニュースを ALT との「交換日記」の中で表現する。
  - b 訂正された英文を英宅の中で Rewrite させ、表現の確認をする。
- ③ 取組の実際

自分たちが表現したいことの英語を知ることができ、使うことができた。今回は書く活動だけだったので、3年次は話す活動へと広げていきたい。

### 生徒の感想

- 新聞記事をそのまま英訳することは難しいが、新聞記事が伝えようとしている内容の概要を自分たちが学習した英語で表現することは面白かった。ALTに日本のことを分かりやすく伝えようとするのも意外と難しく、どの新聞記事を選ぶかに時間がかかった。

「交換日記」で生徒が提出した英文とALTの添削Hot News in Japanのタイトルでバトミントンの桃田選手が交通事故に遭った新聞記事を読んで、ALTにそのニュースをわかりやすく伝えている



「首里城焼失」のニュースの新聞記事から、自分の経験を重ね合わせ、英文で表現することができた。基本的な英単語や文法事項を使って、わかりやすく表現している



#### (5) 実践事例Ⅴ 「道徳 遵法精神 公德心」〔対象：中学1年生 40名〕

- ① 目的
  - ・ 「順法精神、公德心」について、実際の事例が記載された新聞記事を読ませることにより、考えを広げたり深めたりする。
- ② 取組方法
  - a まとめで新聞記事を読ませて、思ったことや感じたことを自由に発表させる。
- ③ 取組の実際

「ふれあい直売所」という題材を使い、決まりの意義を理解し守ることで、自他の権利を重んじ、よりよい社会をつくろうとする実践意欲を育てる。

無人直売所を営んでいる方が、お金が入っていないことについてもやもやしていた。そんな頃、親子の利用者が感謝の気持ちを込めて、購入している様子を見て喜びを感じる。まともで、新聞記事を読ませ発表する。

### 生徒の感想

- 治安がよいことや忘れ物が返ってくるという親切さは、日本の良いところであると思った。
- 最後の新聞記事では、ほんのり心が温まり優しいなと思いました。
- 災害の時に、配給などを1列で受け取る行動や忘れ物を届けようとする優しさが印象的だった。このことは、日本人として誇らしい気分になった。東京2020でも外国人の方にこういったところが見せられるとよいと思う。

#### (6) 実践例VI「合意を形成する～話し合って提案をまとめよう」〔対象：中学3年生 40名〕

##### ① 目的

- ・ 将来にわたって考えていかなければならない課題について、討議を通して意見を深め、自ら関わっていかうとする態度を身に付ける。
- ・ 互いの意見をしっかりと聞き、意見を交換したうえで、課題の解決に向けて効果的に話し合いを進められるようにする。
- ・ 相手や目的、場面に応じて適切な言葉を選んで使うことができるようにする。

##### ② 取組方法

- a 国語3年「合意を形成するー『話し合って提案をまとめようー課題解決に向けて会議を開く』」の単元で、「若い世代が積極的に選挙に参加するにはどのようにすればよいか。」をテーマに合意の形成を目指した班活動・話し合い活動に取り組むことを確認する。まず最初に、「合意を形成することの必要性」や「合意を形成するために何が必要か」について考える。
- b 10班に分かれ、テーマに対する自分たちの提案をまとめる。その際に、発信元が明確である新聞記事を、自分たちの提案の根拠として使う。
- c 生徒の司会進行のもと、全体会議を開き、合意を形成するように話し合いを進めた。

##### ③ 取組の実際

今回の授業は、NIEの公開授業として取り組んだため、生徒たちは適度な緊張感をもちながら、意欲的に取り組んでいた。2年次のパネルディスカッションで体験した、「意見が多岐にわたる」という状況から、3年となって今回の全体会議で合意の形成まで至ったことは、自分たちの成長を体感すると共に、達成感を得ることに繋がった。あと数ヶ月で高校生になり、高校3年生になったら選挙権を手にする生徒たちもいる。都城市選挙管理委員会の全面的な協力を得て、「選挙」について真剣に考えることができたということも、大変よかった。



### 生徒の感想

- 合意を形成するためには、自分たちの考えや意見を押し通そうとし続けるのではなく、相手（他の人たち）の意見や自分たちの意見に対する反対意見を聞き入れ、素直に受けとめながら、題に沿っているのか、実現性はあるかなどを考えて話し合う必要がある。
- いろんな人の考え方があって、それを話し合って、また考えて合意にもっていく。とても大変なことだけれども今の私たちにはとても大切なことなんだと思いました。自分の意見だけでなく相手の意見も尊重していきたいです。
- 中2のときにしたパネルディスカッションのときはまとまる雰囲気になかったのでまとまるのかとても心配でした。しかし、いざやってみると、クラス全体でまとめようという雰囲気がありよかったと思います。資料集めも会議もとても楽しかったです。

#### 4 成果と課題

##### 【成果】

- 新聞を活用した学習に取り組むことで、家庭で新聞を取っていない生徒も含めて日常的に新聞に触れる機会が増え、国内外での出来事を知る情報源の一つになった。
- 世の中の出来事に興味・関心をもつ生徒が増え、新聞記事を要約したり、記事に対する自分の考えを書いたりすることで、語彙力・読解力・表現力が身に付いた。
- 複数の新聞を比較して読むことで、新聞記事を、自分の意見を深める際の思考の糸口として取り上げたりすることができるようになった。
- 本年度は先生方に年度当初に計画を立ててもらって取り組んだおかげで、多くの教科や多くの場面で新聞を積極的に取り入れた取組を行うことができた。
- 公開授業は、「国語」の取組であったが、「社会」の要素も含む学習となり、さらに地域にも協力をいただいて、横断的な取組が行えた。

##### 【課題】

- 本年度は重点校ということで年間通して多くの新聞を生徒に提供できたが、来年度以降はどのようにして取り組んでいくかの検討が必要。
- 教科横断的な取組がやはり少なかったため、今後もさらに新聞の活用法を模索していきたい。